

作成日 2014 年 1 月 9 日

改訂日 2023 年 3 月 22 日

安全データシート

1. 【 化学品及び会社情報 】

製品名	パンチショットフロアブル
供給者の会社名称	丸和バイオケミカル株式会社
住所	東京都千代田区神田須田町 2-5-2
担当部門	開発本部 登録・環境グループ
電話番号 / FAX	Tel: 03-5296-2313 Fax: 03-5296-2323
推奨用途	殺虫剤
使用上の制限	農薬登録以外の使用は不可
整理番号	23323-04

2. 【 危険有害性の要約 】

化学品の GHS 分類(分類 JIS)

健康有害性	急性毒性(経口)	区分 4
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 2(神経系)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2(神経系)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

飲み込むと有害
神経系の障害のおそれ
長期にわたる、または反復ばく露による神経系の障害のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

注意書き 【安全対策】

取扱後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。
【応急措置】 ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師/中毒情報センターに連絡すること。
飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師/中毒情報センターに連絡すること。
気分が悪い時は医師の診察/手当てを受けること。
口をすすぐこと。
漏出物を回収すること。
【保管】 施錠して保管すること。
【廃棄】 内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。
都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

3. 【 組成及び成分情報 】

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名

ビフェントリン:

2-メチルビフェニル-3-イルメチル=(Z)-(1RS, 3RS)-3-(2-クロロ-3, 3-トリフルオロプロパ-1-エニル)-2, 2-ジメチルシクロプロパンカルボキシラート

成分及び含有量

化審法 No.

安衛法 No.

CAS No.

<有効成分>

ビフェントリン

2.0%

(4)-1701

7-(3)-277

82657-04-3

<その他>

水、界面活性剤等

98.0%

4. 【 応急措置 】

吸入した場合

被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。吐き気、頭痛などの症状が続く場合は、医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

汚染した衣服を脱ぎ、直ちに多量の水で15～20分間洗浄すること。洗浄後に異常がある場合には、医師の診察を受けること。

眼に入った場合

目を開いて多量の水で15～20分間穏やかに洗浄すること。コンタクトレンズを着用している場合は、着用した状態で5分間洗浄した後、取り外せる場合には、取り外してから更に洗浄を続けること。洗浄後に異常がある場合は、医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。
可能であれば、胃の内容物を薄めるためにコップ1～2杯の水をゆっくり飲ませ、医師の診察を受けること。
意識混濁・昏睡状態、痙攣などの場合は口から何も与えず、直ちに医師の診察を受けること。

応急措置をする者の保護

救助者は状況に応じて自給式呼吸維持装置付きマスク、適切な眼・皮膚の保護具を着用する。

医師に対する情報

本剤による中毒の治療法として、痙攣に対してはメトカルバモール製剤の投与が有効である。また、副交感神経刺激症状に対しては硫酸アトロピン製剤の投与が有効である。
本剤は消化管内で吸収されると高い毒性を示すため、胃洗浄による除去が有効である。
皮膚に感覚異常症(可逆性)を生ずることがあるが、通常の皮膚軟膏で不快感を緩和できる。他の治療法を用いる場合でも本剤を除去した後、症状に応じた療法を行うこと。

5. 【 火災時の措置 】

適切な消火剤

粉末消火剤、泡消火剤、水噴霧、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水をさける。

火災時の特有の危険有害性

火災時に刺激性、腐食性及び有毒ガスを発生するおそれがある。
一酸化炭素、二酸化炭素、塩化水素、フッ化水素を生成するおそれがある。

特有の消火方法

加熱により容器が爆発するおそれがある。

消火活動は風上から行う。

火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

ミストを吸入しないように注意する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、自給式呼吸維持装置、適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

6. 【 漏出時の措置 】

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入をさける。
環境に対する注意事項	周辺環境に影響があるおそれがあるため、製品の環境中への流出をさける。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	漏出物は砂、土、その他の不燃性吸着剤に吸着させてスコップ等を用いて廃棄用の容器に回収すること。漏出場所は清掃器具を用いて、漂白剤および洗剤の水溶液で洗浄し、洗浄液は吸着剤に吸着させて廃棄用の容器に回収すること。 回収した廃棄物は「13.廃棄上の注意」に従って処理をすること。
二次災害の防止策	取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 【 取扱い及び保管上の注意 】

取扱い	
技術的対策	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	取扱後はよく手を洗うこと。 本製品を取り扱う時に飲食又は喫煙をしないこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
接触回避	情報なし
保管	
安全な保管条件	保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管する。
安全な容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8. 【 ばく露防止及び保護措置 】

許容濃度等	設定されていない (管理濃度、作業環境評価基準、暴露限界値、生物学的暴露指標)
設備対策	ミストが発生する場合は換気装置を使用する。
保護具	
呼吸用保護具	ミストが発生する場合、必要に応じて自給式空気呼吸装置付き保護マスクを着用する。
手の保護具	手に接触する恐れがある場合、薬品用のネオプレン、ニトリルゴム製の保護手袋を着用する。
眼、顔面の保護具	眼に入る恐れがある場合、薬品用保護ゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	作業用の長袖上衣、長ズボン、帽子を着用すること。
衛生対策	取扱後はよく手を洗うこと。 取扱場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。 汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。 作業終了後は必ずシャワーを浴びること。

9. 【 物理的及び化学的性質 】

物理状態	液体
色	類白色
臭い	情報なし
融点/凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	情報なし
可燃性	情報なし

爆発下限界及び爆発上限界 /可燃限界	情報なし
引火点	情報なし
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	7.5
動粘性率	情報なし
溶解度	情報なし
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	1.03
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	非該当

10. 【安定性及び反応性】

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の取扱条件下では安定である。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 【有害性情報】

急性毒性(経口)	ラット LD ₅₀ : ♂775mg/kg、♀632mg/kg*
急性毒性(経皮)	ウサギ LD ₅₀ : ♂♀>2000mg/kg*
急性毒性(吸入)	ラット LC ₅₀ : ♂♀>0.25mg/L*
皮膚腐食性/刺激性	情報が十分でない(分類できない)
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	情報が十分でない(分類できない)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報が十分でない(分類できない)
生殖細胞変異原性	情報が十分でない(分類できない)
発がん性	情報が十分でない(分類できない)
生殖毒性	情報が十分でない(分類できない)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットでの試験において、音に対する反射亢進、自発運動量の変動、横臥、間代性痙攣、流涎がみられた。**
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	イヌの試験において、振せんがみられた。**
誤えん有害性	情報が十分でない(分類できない) *類似製品のデータ **ビフェントリンのデータ

12. 【環境影響情報】

生態毒性	
魚類	コイ LC ₅₀ (96h):0.66mg/L
甲殻類	ミジンコ EC ₅₀ (48h):0.014mg/L
藻類	セテナストラム ErC ₅₀ (72h):>0.438µg/L*
	短期(急性): 甲殻類の EC ₅₀ 値より、区分 1 とした。
	長期(慢性): 急性区分 1 であり、急速分解性ではなく生物蓄積性があると推定されるため、区分 1 とした。
残留性/分解性	急速に分解しないと推定される。 土壌中での分解半減期は 65~125 日
生態蓄積性	生物蓄積性があると推定される(BCF=1440)
土壌中の移動性	土壌中での移行性は低く、地下水への影響は低い。
オゾン層への有害性	情報が十分でない(分類できない)

*ビフェントリンのデータ

13. 【 廃棄上の注意 】

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 【 輸送上の注意 】

国連番号	3082
品名(国連輸送名)	環境有害物質(液体)(ビフェントリン)
国連分類	9(有害性物質)
容器等級	Ⅲ
海洋汚染物質	該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光をさけ、容器の破損、腐食、漏れなどのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報	非該当
応急措置指針番号	171

15. 【 適用法令 】

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報	
農薬取締法	第 23323 号
化学物質排出把握管理促進法(化管法)	ビフェントリン(第 2 種)(令和 5 年 3 月 31 日まで)
労働安全衛生法	該当なし
毒物及び劇物取締法	該当なし
消防法	該当なし
道路法	該当なし

16. 【 SDSの作成と改訂に関する情報を含むその他の情報 】

事故に伴い急性中毒の恐れがある場合

公益財団法人 日本中毒情報センター 中毒110番

	一般市民専用電話 (通話料のみ)	医療機関専用有料電話 (1件につき2000円)
大阪中毒110番 (年中無休、24時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば中毒110番 (年中無休、9~21時対応)	029-852-9999	029-851-9999

記載内容は十分な配慮に基づき作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。本データシートは情報を提供するものであって、品質や安全性等に関していかなる保証もするものではありません。危険・有害性等の評価は必ずしも万全ではありませんので、取扱いには十分注意を払って下さい。また、注意事項は通常の実施を対象としております。